

TOPICS

[Vol.39]

アレルギー性鼻炎の治療

耳鼻咽喉科 瀬野 悟史

1. アレルギー性鼻炎・花粉症とは？

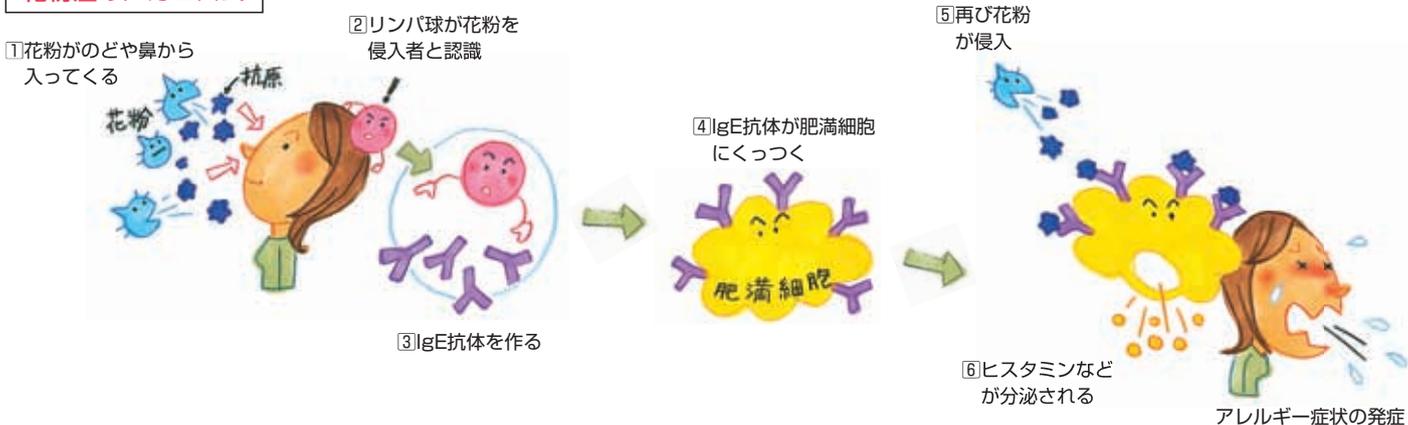
私たちの体は花粉という異物（抗原、アレルゲン）が侵入しようとする、それを排除しようとする「抗体」を作る仕組みをもっています。何度も抗原との接触を繰り返すことで抗体の量が増え続けて、体の中であるレベルを越

えた時に抗原の侵入があれば、突然強い症状が現れます。

アレルギー性鼻炎では、血液中の肥満細胞と結合した抗体と、体内に入ってきた抗原（花粉）との間に抗原抗体反応が起こると、肥満細胞からヒスタ

ミンなどの化学物質が放出され、くしゃみ、鼻水、涙などを出して抗原（花粉）を排除しようします。くしゃみ、鼻水、鼻づまりのほか、目のかゆみや充血、皮膚のかゆみなどさまざまな症状が起こることもあります。

花粉症のメカニズム



2. 花粉カレンダー

花粉症といえばスギやヒノキの花粉が抗原になるケースが多いのですが、それ以外にもアレルギー性鼻炎の原因となる花粉を放出する植物があります。夏から秋にかけてはイネ科やブタクサ属、ヨモギ属の植物による花粉症が多くなります。

花粉の種類や飛散の時期は地域によって異なるため、原因となる花粉の

種類と飛散のスケジュールを把握しておくことが大切です。

花粉カレンダー（関西地方）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スギ				■	■							
ヒノキ科				■	■							
イネ科				■	■	■	■	■	■	■	■	■
ブタクサ属								■	■	■	■	■
ヨモギ属										■	■	■

花粉の飛散量
 ■ 非常に多い
 ■ 多い
 ■ 少ない

3. 抗原回避

原因となる花粉をできるだけ吸わないように、また家の中に持ち込まないようにすることで、症状を軽くすることができます。花粉情報をチェックして、飛散の多い日は外出を控えたり、窓や戸をできるだけ開けないように注

意します。また、外出する際はマスクやメガネを使ったり、花粉の付きやすい毛羽立った衣類などは避けるようにします。

外から帰ったら、衣服や髪をよく払い、洗眼、うがいをして鼻をかむよう

にします。また、花粉の時期には床だけでなくソファやカーテンについた花粉を掃除機で吸いとるなど、掃除をまめに行き室内をいつもきれいにしておくことが大切です。

4. 薬物療法

花粉症の治療薬として、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、ステロイド薬などの内服薬や点鼻薬を症状に応じて使い分けます。毎年症状が強い方や花粉飛散量が多い時は、花粉が飛び始める少し前から抗アレルギー薬や第2世代抗ヒスタミン薬を服用することで、シーズン中の症状を軽減することができます。第2世代抗

ヒスタミン薬というのは、速効性はあるものの眠気などの副作用が強い第1世代抗ヒスタミン薬に対して、眠気やだるさを抑え、長時間効果が続くようにしたものです。

症状が強くなってからの治療では、抗ヒスタミン薬だけでなく、炎症を抑える作用のあるステロイド薬を一時的に服用したり、局所ステロイド剤（点

鼻薬）などを併用して強い症状を抑えます。また強い鼻づまりの症状には抗ロイコトリエン薬や抗トロンボキサンA2薬が用いられます。そして、強い症状が落ち着いたなら、毎日抗アレルギー薬や抗ヒスタミン薬を服用する維持療法で花粉の飛散期間を乗りきります。



5. 手術療法

外来や短期入院で行えるレーザー治療は、レーザーで鼻の粘膜を焼いて、花粉に対する過剰な反応を抑えるもので、鼻水や鼻づまりなどの症状を抑えます。けれども粘膜が再生されて効果

はだんだん薄れていくため、手術を繰り返す行うことが必要です。

薬物療法で効果が得られない重症の鼻づまりには、鼻の粘膜の腫れ上がった部分を切除する「下鼻甲介切除術」

が行われます。7～10日ほどの入院が必要ですが、治療効果が長続きする利点があります。

6. 特異的免疫療法（減感作療法）

特異的免疫療法とは、アレルギー症状を起こす原因物質のエキスを、長い時間をかけて少しずつ体内に注射することで、体をアレルギーに慣れさせることによってアレルギー症状をなくす

治療法です。はじめは1週間に1回、薄めたエキスを少量注射することから始めて、だんだん量を多く、濃度を高くしていきます。その後2週間に1回、最終的には1月に1回にして、できれ



ば2年以上この注射を続けます。長期にわたる症状の改善が期待できる治療ですが、長い時間がかかり、頻回の通院が必要なのが欠点です。

7. 将来の治療法

花粉症の新しい治療法として、注射ではなく原因物質のエキスを口腔粘膜から吸収させる「舌下免疫療法」や、原因物質のエキスではなくたんぱく質の一部を合成した合成ペプチドを注射する「ペプチド免疫療法」などが開発中です。「舌下免疫療法」は自宅で行えるので通院の手間が省ける利点が、

「ペプチド免疫療法」はエキスをそのまま使う免疫療法と比べると、アナフィラキシーショック（抗原が侵入してから短時間でおこる即時型アレルギー反応）のリスクが少ない利点があります。

また細菌製剤を投与することでアレルギー症状を軽減できないかという研

究や、ヒト型化抗IgE抗体、DNAワクチンなどの遺伝子治療についても研究が進められています。これらの治療法が実用化されればアレルギー体質の根本的改善に新たな展開が期待できそうですが、まだ現時点ではアレルギー性鼻炎の治療法は抗原回避と対症療法が主体となっています。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第12号別冊 編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL：077(548)2012(企画調整室)
過去のTOPICS(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します